

## 第11回新しい公共島根県運営委員会

日 時 平成25年9月26日(木)  
14:30～16:30  
場 所 島根県庁6階講堂

### <委員長挨拶>

- ・2年間やってきたことについて反省し、次につなげていくことが必要。
- ・2年間何となく「ふわふわした感じ」があった。「市民活動」「NPO活動」「NPOという組織」「協働」「県行政」等について、もう一度足元を、そして原点を見詰め直すことが必要ではないかと思う。

### <議事>

#### 1. 協議事項(1) 新しい公共支援事業の実績報告等について

##### ■事務局説明

- 結論：基本的に了承。ただし、実績報告及び運営委員会評価結果報告の文言等について要修正（運営委員長及び事務局に一任）。

##### ■質疑

(H25事業成果報告について)

- ・フォーラムの参加状況について、定員400名が早くに満杯になって、（地域づくりに関して）すごい関心が高いんだなと思っていましたが、実は堀尾さんを見に来たという人がほとんどで、堀尾さんの講演が終わったら3分の2くらいはお帰りになった。また、申し込みをことわった人数は20名と聞いて少し残念。この事業に関わった団体の関係者もたくさんいるので、もう少しフォーラムに関心を持っていただけるような仕掛けができたらと思った。
- ・フォーラムで実施したポスターセッションについて、そもそも「ポスターセッション」の意義、位置づけを分かっていただけでいなかったのではないか。もう少し丁寧なアナウンスが必要ではなかったか。
- ・堀尾さんのお話に御興味がある方というのは「ご近所の底力」であり、助け合いとか課題解決のアイデア等を探りたいという方もいらっしまったと思うが、それが後半のパネルディスカッションに結びついていなかった。もう少し掘り下げてもらいたかったとい

う気がする。

- ・ポスターセッションには8団体が参加されたが、すべての団体が参加されなかったのはなぜか。フォーラムの場で、きちんと事業を振り返り、分かりやすく報告し、また事業PRすることはとても大切なことではないか。
- ・報告書の成果の部分の書き方について、大きな視点からの記載から非常に小さな視点からの記載まである。あまり細かいところまでは記載しなくて良いのではないか。
- ・今回はどちらかというといきいき活動というものにあまり関心がない人たちをどう呼び込むかという視点から計画したもの。そういう意味では400人も集まったということは良かったといえるし、他方でもっと深く知りたかったNPOの方々とかが今回来れなかったかもしれないし、仮に来たとしても期待外れだったというようなところもあったかもしれない。
- ・評価ランクについて、「B：一定の成果が得られた」が選択されているが、私は「A：優れた成果が得られた」を選択し、ただ反省点もあったとすべきではないかと思う。
- ・一つの催しで一般の県民向けとNPO活動実践者向けの両方を一緒にやることに無理があった。
- ・私は今他県にいるが、新しい公共っていう概念は無論のこと、もともと地域におけるNPOの存在感や影響力が違う。これまで様々な取組を行ってきた島根の視点から見れば、評価として「非常に優れた」とは言いにくいので「一定の成果があった」が選択されているのかもしれない。逆に、島根県において堀尾さんの話があればあれだけの人が来てくれるということは、まだまだ各地域に潜在力、底力があるということだと思う。このことがわかったことは一つの成果だと思う。どこに対して何を言うかっていう点で見ても、私もこの評価は少し厳し過ぎるかなと思う。
- ・「一定の成果が得られた」というのは無難。「一定の成果」とはどのくらい？あまり芳しくないと思う。
- ・フォーラムに400人集まったことは「成功」、シンポジウムに重点を置いていたが半分以上の人が帰ったことは「失敗」。評価は任せるが「一定の成果」を選択することはつまらない。
- ・評価の判断基準は、都道府県によって違う。
- ・成果報告書「いきいきレポート」やフォーラムチラシにはちょっと驚いた。一般の県民に何らかの刺激を与えられたという点で良かったと思う。ただレポートの問い合わせ先の部

分に工夫が必要。

- ・いきいきリポートについて、得られた成果についての表現がとても控えめ。
- ・いきいきリポートの配布先について、銀行各支店、学校、クリニック等を検討してはどうか。また、報告書の完成について広報もしてはどうか。
- ・フォーラムでは、主催が島根県、共催がふるさと島根定住財団、山陰中央新報社となっていたが、その経緯は？
- ・フォーラムについては、再度の開催要望があった。
- ・モデル事業について、事業終了後どうなったのか非常に興味がある。一年半後にどうなったのか、報告会みたいなことを考えてはどうか。
- ・この事業の中で、フォーラムは2年間連続松江で開催された。各地のNPO、あるいはそれ以外の団体の方が集まって一般の市民の方に活動を報告していく、こういう機会は大切。今後、各地域で小さいフォーラムみたいなものが実施できたらと思う。NPOが力をつけたいっていうときに、何が成果になるかという、やはり地元で支えてくれる人が増える、あるいは地元の子供たちがNPOの顔を覚えてくれるみたいなことがすごく大事だと思う。
- ・フォーラムについて、ポスターセッションは斬新だったと思う。人が半分帰ったという点に打ち手は、堀尾氏云々というよりも2時間も聞いていたら帰りたくなるのが普通ではないか。

(支援事業全体について)

- ・今後島根県で必要なもの、取り組むべき課題という点でいうと、私は「学校、子どもへのアプローチ」が挙げられると思う。
- ・「学校」に関して、今、職業人講話的なものにすごく高校は力を入れているので、そこからアプローチが可能。
- ・飯南高校では生命地域学ということで、地域活動に高校生と一緒に参加する取組が行われている。
- ・今回新しい公共支援事業のお金を使った団体について、「その後事業が消えた」ということは許されない。やはり、何らかの追跡調査、報告などが必要ではないか。
- ・フォーラムと報告書について、運営委員の意見を入れてほしいということをお願いしていたが、ほぼ入らなかったと感じている。様々な人が関わると手間がかかるかもしれない。

いが根気強くつきあって欲しい。

- ・私はこの会議のほかにも委員として参加しているが、この会議は特に民間の人がだめ出しがあり、意見も沢山出ていると思う。事業企画の段階から民間の人が入って一緒に議論することは必要なことだと思う。この委員会は、県の会議としては（他の会議と比較して）様々な意見を受け入れているのではないかと思う。
- ・ポスターセッションでは多くの人が熱心に聞き、質問をされていた。このような活動内容を知る機会は貴重。今後もこのようなフォーラム、シンポジウムは必要だと思う。
- ・点と線をつないで面にして地域の多様な主体が連携しながら活動をしていく、ということを進めていこうとするとき、行政の理解度が重要。行政といっても県と市町村では決定的な落差があると感じている。
- ・県庁の中でも、職員によって意識に落差があると感じる。また、県の組織の中あるいは関係機関との連携についても進めていく必要がある。
- ・新しい公共支援事業に関して様々なNPOから出た意見として、事業申請後の審査と監査は厳しいけれど、途中は放置されていた。これは協働事業全般にいえる課題。育てるという視点で問い合わせや質問や協力が得やすい仕組みをつくっておいていただきたい。
- ・放置という点では、NPO側からのアプローチも必要。
- ・運営委員としても、監査だけではなく様々な場面で関わるべきだったか。
- ・先日の災害では、ボランティアセンターの現場で様々な混乱があった。この混乱には行政の協働の経験に関係があったと思う。
- ・フォーラムを行政が今後も続けていくべきか。この機会にもう一回基礎から、協働は何かについて知って、行政とNPOが実際に責任と役割を半々で共有しながらやっていくことが必要ではないか。

以上